

# 第1回教育委員会定例会議 会議録

1 日 時 平成29年1月25日(水)

開会 13時30分

閉会 14時20分

2 会 場 金沢市庁舎 7階 第1委員会室

3 出席委員(7名)

教 育 長	野 口 弘
教 育 委 員	田 邊 俊 治
〃	早 川 芳 子
〃	岡 能 久
〃	河 野 俊 寛
〃	大 島 淳 光
〃	丸 山 章 子

事務局	教育次長(兼)学校教育部長	浦 世史宏
	担当部長(兼)教育総務課長	山 田 啓 之
	教育総務課課長補佐	中 西 賢 治
	担当部長(兼)学校職員課長	川 口 勝
	学校職員課担当課長・管理主事(兼)課長補佐	吉 田 圭 史
	担当部長(兼)学校指導課長	西 川 茂 治
	学校指導課担当課長(兼)課長補佐	村 田 昌 人
	市立工業高校事務局長	堂 岸 豊
	生涯学習部長	川 原 陽 一
	生涯学習課長	小 寺 洋 右
	図書館総務課長	仙 石 正 美
	(兼)玉川図書館長	
	(兼)近世史料館長	
	(兼)玉川図書館城北分館長	
	泉野図書館副館長	中 坂 暢 江
	玉川こども図書館副館長	池 田 光 穂
	金沢海みらい図書館長	藤 木 由 里
	教育プラザ総括施設長	桶 田 光 一
	(兼)地域教育センター所長	

4 案 件

報告第1号 平成28年度「金沢市いじめアンケート」の調査結果について

(学校指導課)

報告第2号 金沢型学習スタイル映像資料について

(学校指導課)

報告第3号 金沢型学校教育モデル指導事例集について

(学校指導課)

そ の 他

(1) 平成28年度 金沢ユネスコスクールこどもサミットの開催について

(2) 平成28年度 金沢市立工業高等学校卒業予定者の進路状況について

### (3) 次回の定例会議の日程について

#### 5 議事の経過等 以下のとおり

野口教育長の開議あいさつに続いて、議事録署名委員として大島委員を指名した。本日の議題について野口教育長が非公開にすべきものはないと発議し、全会一致で全て公開とすることを決定した。

審議に入り、報告第1号、報告第2号、報告第3号、その他(1)(2)について説明・質疑応答が行われ、原案どおり承認した。また、2月の定例会議の開催日を次のとおり決定し、閉会した。

\* 2月の定例会議の日程：平成29年2月22日(水) 13:30～

[案件の説明及び諸報告について]

案件について、別添資料等に基づき事務局より説明・報告し、原案どおり承認された。

[主な質疑・応答の内容について]

#### ○ 報告第1号 平成28年度「金沢市いじめアンケート」の調査結果について(学校指導課)

(説明の概要) 議案書2ページ。昨年10月に実施した平成28年度「金沢市いじめアンケート」の全集計結果については、別添資料として示している。結果概要について説明する。なお、高等学校においては1校のみのデータであることから、昨年度との比較、分析は割愛する。

まず前年度と比較して5ポイント以上増減した項目を2の(1)(2)に示した。小学校においては1項目も該当するものはなかった。中学校においては、問4「いじめられた時、どのような気持ちになりましたか」の「オ 腹が立った」、問6「その後、誰に相談しましたか」の「キ 友達」、問7「誰にも相談しなかった理由は何ですか」の「エ どうせ解決しないから」、問8「相談後、いじめはどうなりましたか」の「ア いじめられなくなった」の4項目だった。減少した項目は、問7「誰にも相談しなかった理由は何ですか」の「オ 恥ずかしいことだから」、問12「あなたがいじめをした理由は何ですか」の「エ みんながするから」の2項目だった。中学校において、問6の「キ 友達」や、問8の「ア いじめられなくなった」が増加したことは、いじめを誰かに打ち明けられ、いじめを相談したことによって解決したケースが増えたと捉えるため、良い傾向といえると考えている。

別添資料2ページ。一方、小・中学校ともに問6の「ケ 誰にも相談しない」児童生徒が相変わらず多く、学校内でいじめが発生しているにもかかわらず、学校の先生への相談割合は少ない結果となっている。それは次ページの問8「相談後、いじめはどうなりましたか」の「ウ 前と変わらない」と考えている児童生徒が多いことから、教職員の中で信頼できる相談相手が少ないと考えられる。

問10の「(いじめを見たり、聞いたりした) その時どうしましたか」の項目では、「ウ いじめられた人をなぐさめた」「カ いじめを見ていた」などが高いことから、いじめを見た際、直接的に関わることを避ける傾向があると捉えられる。これは4ページの間13の「(1) どんな理由があっても、絶対にいけないことだ」と感じながら、5ページの「(5) いじめを注意すると自分もいじめられないか心配だ」と思う児童生徒が多いことから、自分もいじめられないかという不安を持っていると考えられる。4ページの間12「いじめをした理由」において「イ なんとなく」「ウ むしゃくしゃしたから」「エ みんながするから」と回答した児童生徒が多いことから、自分がいじめられないために周りの雰囲気と同調していると捉えられる。

このような結果から学校は、いじめは人間として絶対に許されないということを強く指導しつつ、些細な兆候であっても「いじめではないか」という視点を持って積極的に関わり、組織的に迅速かつ適切に対処しなければならないと考えている。教師自身がいじめに対する意識を高め、

敏感に反応し、心無い言動に対しては毅然とその場で指導するなど、「先生に相談すれば何とかなる」という信頼を築くことや、いじめを許さない雰囲気醸成に努め、相談しやすい環境整備を行っていく必要があると考える。

また、道徳の教科化に伴い、表面的な価値を学ぶだけでなく、人間の弱さや他者を思いやる心などについて、これまで以上に対話や討論などを通して学ぶ道徳の授業の充実を図っていくことも重要であると考えている。加えて、金沢型学校教育モデルの実践を通して、児童生徒の主体的、協働的な学習を充実させ、日々の教育活動の中で児童生徒の自己肯定感や自己有用感を高めることがいじめの未然防止につながると考えている。今後とも校長会議をはじめ、あらゆる機会を捉えて指導していきたいと考えている。

河野委員

問 1「あなたは、次にあげたことがらを『いじめ』だと思いますか」に対して、理想としては 100%であるべきだと思いますが、95%であり、残りの 5%はこの人数から言うと 1000 人を超えてしまいます。つまり、1000 人以上の子どもは、これがいじめであるという知識がない状態だと思うと、危機感を持ちます。私の専門が特児支援なので、ついこういう考え方をしていますが、子どもたちに考えさせていくことも非常に重要である一方、そもそもこういう行動がいじめであるということも教えていく必要があると思います。大人のハラスメントも同じで、こういう事例はハラスメントだという認識があまり広がっていないように感じるのので、具体的にこれはいじめであるということを知っていただく必要もあると思います。

野口教育長

考えさせることも大事ですが、教えるべきことはしっかりと教えるべきではないかというお話だったと思います。

丸山委員

同じく問 1 について、これがいじめだという認識が、特に高校生になるにつれて、「嫌がることを何度も言う」など 6 項目でパーセンテージが下がっていて、これはいじめだと思っていないことが多いのが気になります。これは小学校、中学校は教育をした成果なのか、それとも大人になるにつれてだんだん、これはいじめではないと思ってしまっているのか、その点が気になります。

問 2 で、数値的には「今、いじめられている」は少なくなっていると思いますが、目標としてはゼロにしなければならないと思います。

西川学校指導課長

問 1 については、河野委員がおっしゃるように、指導者としては全ての項目がいじめであるという認識が 100%になることを常に望んでいかなければならないと考えています。ただ、この経年比較は平成 27 年度からを示していて、それ以前の数値からも年々若干上がってきているので、小・中学校においては、各学校の先生方の粘り強い指導の成果が少しずつ出ていると思っています。大事なことは、先生がその機を逃さず、毅然とした態度でしっかり指導することだと思っています。また、いじめでは傍観者がよく問題になりますが、周りで見ている傍観者の子どもたちについても、その場で適切な指導を行うことが大事になってくると思っています。

問 2「今の学年になって、あなたはいじめられたことがありますか」についても、まだまだ満足する数値ではありませんが、学校ではいじめの把握・認知については、この「いじめアンケート」を活用するというよりも、小・中学校では年々、数多く実施している日々の定期的な生活アンケートや悩み調査等の中で、子どもたちの状況について早期発見・対応を心掛けているので、今後も継続して指導していきたいと思っています。

早川委員

問 1 の (5) ですが、最近心を痛めたケースがあります。横浜市で合計 150 万円を超えるお金や物をひとりの生徒に持って来させた事件です。こ

うしたことをいじめだと思っていない子どもたちもいます。ニュースでは大人もいじめだと思っていないとの結論が出ていました。私たちが生徒だった頃は、自分たちはお金も持っていないし、物もそんなに持っていませんでしたので、起きなかった事件かもしれません。今日では子どもたちがもしお金を持っていないなら、家の中のお金や物を黙って持って行くのでしょうか。この項目は、すごく広い範囲で、いろいろな事柄が関わってきます・教育的にはどのように子どもたちを指導していくのでしょうか。うまくいった、うまくいかなかったという例があれば教えてください。

西川学校指導課長

金品については、特にお年玉等のお金を多く持つことが増える冬休み前の時期に、学校ではそういう指導を行っています。自分の経験上、子どもたちは非常に多くの種類の物が身の回りにあり、たやすく手に入る状況にあるので、たとえ親や親戚から渡されたお年玉であっても、「それはあなたのも物ではなくて、親を通してあなたに渡ったものなので、もらった金額や購入した物については、しっかり親に伝えること。友達の家へ行って、何かもらったときも、『今日は〇〇さんの家でこれをもらってきた』と家の人に必ず報告すること」と指導していました。

また、金品が高額な場合は、自分の小遣いからではなく、親や家族の財布から子どもたちが持ち出すケースもあります。その際、保護者には、子どもの持ち物は当然ですが、家族の中で変化がないかなど、親自身が高いアンテナを張って子どもたちを見守り、親についても必要に応じて毅然な態度で指導してほしいということ。また、親の言うことをなかなか聞かない子どもも現実的にたくさんいるので、そのときには遠慮せず学校に相談して、一緒に子どもたちをより良い方向に向かって指導できるような連携を図っていくことも大事にしたいと考えています。

田邊委員

冒頭、河野委員からご指摘があったように、数の上では少なからず、いじめ認知が行きわたっていないと、そういうことを習得していないコアになるような子どもたちがいると推測されます。恐らくその背景には、いろいろな家庭環境、社会状況があると思うので、そのあたりは各学校の取り組みの中で十分押さえられていることだと思いますが、なお一層の取り組みが必要だと思います。学校訪問の折にも、いじめへの対応をいろいろお聞きしますし、学校では積極的に対応しようとしています、それがなかなか届かない現実もあり、たちごっこではありませんが、地道に取り組んでいくことが必要だと思います。

一方、このアンケートで気になることは、問 6「その後、誰に相談しましたか」で、「誰にも相談しない」が小・中学校平均して4分の1ぐらいのことです。しかし、相談してどうなったかという、「前と変わらない」という回答もあるので、内に秘めてしまって、誰にも相談できない実態もこのアンケートから浮き彫りになっていると思います。なかなか見えにくいものを探るのは容易ではありませんが、複数の先生方の目で、いろいろな対応をぜひ積極的に取り組んでいただけないかと思います。

早川委員

子どもたちの中では面と向かって相談しにくい場合があります。電話でいじめを受けていることを相談に乗ってもらえるシステムが、教育プラザにあります、その件数は増えているのでしょうか。最近、いじめによる自殺件数が増えているニュースを見ますが、心配です。上手に電話相談などが活用されているのでしょうか。

桶田教育プラザ総括施設長

教育プラザで「いじめ電話相談」、それからいじめに限らず、「こども専用の相談ダイヤル」の二つのチャンネルを設けて、相談に応じています。手元に数字は持ってきていませんが、両方の相談電話とも利用は少なくありません。相談員は真摯に相談を受け止めるとともに、プラザは相談を頂

いてもすぐに行動を起こせる機関ではないので、できるだけ身近な人に相談することを促す形で行っています。

野口教育長

せっかく行ったアンケート結果ですので、ぜひ学校にフィードバックをして、指導すべきことは指導し、考えさせるところは考えさせる形で有効に使っていただき、次年度はいい結果になるようご指導いただければと思います。

### ○ 報告第2号 金沢型学習スタイル映像資料について（学校指導課）

（説明の概要）議案書4ページ。本事業は金沢型学習スタイルに基づく授業内容の充実を図るため、授業映像資料を作成し活用することを目的としている。撮影した映像は、「3 特徴」に示したように、「金沢型学習スタイル」の指導過程を分かりやすく紹介したことや、指導上の留意点などをテロップで明確化したことなど、主に四つの特徴がある。

具体的には、別添資料に映像資料の特徴的な場面を示している。各教科の最初のメニュー画面は、「金沢型学習スタイルとは」「小学校 オールプレイ」「中学校 オールプレイ」「小学校 チャプターメニュー」「中学校 チャプターメニュー」が選択できるようになっており、「オールプレイ」では、金沢型学習スタイルに基づく授業を通して視聴でき、「チャプターメニュー」では授業の場面を選択して視聴できるようになっている。「金沢型学習スタイルとは」には、金沢型学習スタイルの目的や1単位授業を三つの段階と五つの場面で構成することなどを解説している。各教科の授業には、三つの段階を映像の左上に示すとともに、指導上の留意点を中央下にテロップで示している。

映像資料は国語科、算数・数学科で各1枚のDVDにまとめ、1月中に全小・中学校に配布する。この映像資料は各学校の全教員を対象とした校内研修会、教員個人の教材研究や授業研究等で活用される予定で、金沢の全ての学校の教員一人一人が金沢型学習スタイルに基づく授業を当たり前のこととして行い、授業力が向上していくことを期待している。今年度は小・中学校の国語と算数・数学科において作成したが、今後、来年度は社会科、理科、平成30年度は英語科、体育・保健体育科の映像資料を作成する予定である。

野口教育長

今年度から金沢型学習スタイルがスタートしていますが、1時間の授業でどのように学んでいくのかをしっかりと先生方に把握し授業を組んでいただく。そのために、次期学習指導要領にあるアクティブラーニングを意識した映像資料としても準備されています。

### ○ 報告第3号 金沢型学校教育モデル指導事例集について（学校指導課）

（説明の概要）議案書6ページ。本事業は金沢型学校教育モデルに基づく教育活動の普及を図るため、小・中学校教員による教科別の研究グループを立ち上げ、指導方法等の研究を行ってきたものである。資料に示した六つの教科別研究グループを構成し、6月から県外他都市の視察や研究実践に取り組んできた。この研究の成果を1月30日（月）に3カ所の会場で、市内小・中学校の教員計450名の参加の下、発表する予定であり、金沢型学校教育モデルに基づく授業について、より一層の理解を深める場としたいと考えている。また、3月には研究成果をまとめた指導事例集を市内全小・中学校に配布する予定である。今後は教員の授業改善に向けて各学校で校内研修、日々の授業研究などにおいて、指導事例集の活用が図られる予定である。

田邊委員

指導事例集は、先ほどの映像資料とのリンクはあるのでしょうか。六つのジャンルで対象教科が設定されていますが、音楽や家庭、図工などは視野にないのでしょうか。

西川学校指導課長

映像資料集は、金沢型学習スタイルに基づく授業について現場の先生方

により深い理解をお願いするため、三つの段階、五つの場面の中で具体的な教師の指導上の留意点や具体的な手立てを映像で示すことが大きな目的になっています。

モデルの指導事例集については、スタイルにおける教師の具体的な実践を報告することもあります。どのように学ぶだけでなく、何を学ぶかという金沢型学習プログラムの視点に沿い、先生が開発した教材を授業場面でどう活用するかという視点も合わせて、指導事例集の形で作成をお願いしています。その内容について、1月30日に市内の先生方にご報告していただきますが、特に小・中学校の先生が同じ会場で聞くことで、金沢型学校教育モデルの土台として位置づけている金沢型小中一貫教育についても視野に入れながら、小学校から見た中学校、中学校から見た小学校の指導も参考にして、今後の教育実践に活用していただきたいと考えています。

教科については、本事業が今年度から立ち上げた事業なので、まずはこの6教科でスタートさせていただきました。来年度以降については、今は予算編成時期ですので、この場では割愛させていただきたいと思っております。

野口教育長

理科であれば、4人で研究グループを構成して、その中に小学校2名、中学校2名が入っています。小と中ですから、系統性を大事にしながらやっていくことは当然ですが、小と中の先生方によって研究テーマを定めただ上で、そのテーマに沿って研究を深めながら、事例集を四つ作ったということによろしいですか。

西川学校指導課長

まず4人で共通の研究テーマを設定させていただきました。併せて、金沢型学習スタイルに関連した意識として、重点を2点以上設定し、その重点に沿った形で授業実践をしていただきました。併せて、研究を進めていく中でお互いの研究授業を校内で実施し、小学校の先生、中学校の先生がお互いに参観し、整理会にも参加する形で、小・中学校の先生が連携を深めました。

## ○ その他 (1) 平成28年度 金沢ユネスコスクールこどもサミットの開催について

(説明の概要) 議案書7ページ。金沢市学校教育振興基本計画では、基本的方向性「ふるさと金沢の個性を生かした教育に取り組みます」の中、取り組むべき施策の考え方として、ユネスコスクールとしての取り組みの推進を掲げています。金沢ユネスコスクールこどもサミットは、その実践成果を発信するものとして、今年度初めて開催する。

「1 目的」は、ユネスコスクールとしての取り組みの実践成果を発信することで、金沢市立全小・中学校の児童生徒が自己の価値観や生き方を見直し、持続可能な社会の構築に向けて行動できるようにすることである。「2 日時」から「4 参加者」までについては、資料に示したとおりである。

「5 内容」では、ユネスコスクール加盟校・加盟申請校はこどもサミットのテーマ「自分たちのこれからの生き方について考えよう～ユネスコスクールの取組をとおして～」を踏まえ、ユネスコスクールとしての今年度の取り組みをポスター1枚にまとめており、代表児童生徒がその取り組みを発表する。その後、テーマに基づいた自分の考えをグループに伝え、話し合いをした後、全体で意見交換し、それぞれの学びを共有したり深めたりして、テーマに迫るまとめを行う予定である。

「6 事後の取組」では、代表児童生徒が集会や校内放送等を活用して、こどもサミットで学んだことなどを報告することを通して、自己の価値観や生き方を見直し、持続可能な社会の構築に向けて行動するきっかけとなるようにしたいと考えている。また、各学校が作成したポスターは2月13日(月)～24日(金)、市役所1階新館エントランスホールで展示することにしており、各学校の取り組み成果を市民に広く発信したいと考えている。

早川委員	代表児童生徒は各学校から2人が選ばれて、参加するのですよね。何年生でもいいのですか。
西川学校指導課長	各学校がユネスコスクールとして取り組んだ成果を発表するもので、その内容についても多岐にわたっており、その学校で主にそのテーマについて中心的に取り組んだ学年の児童生徒が対象になりますので、こちらから学年の指定はしていません。
早川委員	ユネスコスクールの捉え方自体が非常に難しく、活動が多岐にわたっていて、私たちも何をもって「持続可能な社会」と解釈するのは非常に難しいです。自己の価値観という言葉も、自分の生き方を見直すことも非常に難しいのですが、生徒たちは理解してくれるのでしょうか。活動している生徒たちは学校で活動しているので、意味が分かっていると思いますが、第三者から見ると、それは一体何なのか分からないのではないのでしょうか。第二次世界大戦が終わった後、戦争で疲弊した国々があらためて、文化、教育、環境の分野から平和を求めようとユネスコが生まれました。この基本的なユネスコの憲章に基づいて活動が行われているのでしょうか。もう少し易しい表現で、このサミットを捉えることはできないのでしょうか。
西川学校指導課長	確かに、ユネスコスクールとは何か、どういう取り組みをするのかということ、この表現から読み取りにくいと思いますが、本市では主に総合的な学習の時間や金沢ふるさと学習を通して子どもたちが学ぶ中で、学んだことを生かして、自分は今後どう生きていくか、人・地域とどう関わっていくかという振り返りを大事にしながら、学習を進めていくことを重視しています。 今回、各学校から事前に報告を頂いたテーマは、自然環境、地域の伝統芸能、農業、加賀野菜など多岐にわたっており、まずは自分が生活基盤にしているところについて学習しながら、自分が大人になったときにどういうことを頑張っていきたいかという生きる希望を子どもたちにぜひ持たせたいと考えています。それも単に思うだけでなく、他の仲間にも表現、発信していく力もつけたいと考えています。
早川委員	染物屋さんの近くの小学校では卒業証書のカバーを生徒たちが友禅染めで作っています。これは、「持続可能な社会」の構築の一部で非常に素晴らしい活動です。JALが夏にアジアとオーストラリアから生徒を集めて開くセミナーで、お話ししたことがあります。すると、夏休みだったので実現はしませんでした、「その学校へ行ってみたい」という希望がありました。 こんな風に、世界的に見ても素晴らしい活動があります。多岐にわたることをもう少し分かりやすく書いていただけると、もう少し注目されるのではないのでしょうか。それこそ第1回ですから、持続していかなければならないので、すすめ方はとても大事です。何らかの形で子どもたちが刺激を受けることは重要です。 この「こどもサミット」はオーディエンスはいなくて、生徒たちが発表するだけなのですよね。
西川学校指導課長	全ての学校の児童生徒が集まってグループを編成して、自分が説明する時間と説明を聞く時間を設けて、自分の興味・関心のある学校の発表へ動いていくポスターセッション形式を取りたいと思っています。児童生徒、担当教員が参加しますが、教育委員の皆さまにもお時間があれば足を運んでいただきたいと思っていますし、ポスターは模造紙大のものを作成し、それを市役所新館のエンストランスホールに一定期間展示させていただきますので、機会があればご覧になっていただきたいと思っています。本当に多岐にわたったテーマで各校が取り組んでいますので、実際に学校がどうい

う活動をしているかも知っていただければと思います。

野口教育長

先日行われたふるさと学習の発表会でも、各学校のテーマは多岐にわたっておりました。ぜひご覧になってご助言等を頂ければと思います。確かにユネスコスクールの概念は難しいですが、世界的に起こっているさまざまな課題に対して、自分が解決に向けてどう関わっていくかという骨組みでできています。当初は環境教育が随分多かったと思いますが、最近はテーマが広がってきたと思いますので、ぜひ会場にお越しいただければうれしいと思います。

田邊委員

金沢ではユネスコスクールがとても活発で、これまで学校もかなり積極的に実績を重ねてきていると思います。一昨年、ESD の国際会議が岡山で開催されましたが、こういう持続可能な社会とユネスコスクールの取り組みがかなりリンクして、国際的にも展開されています。金沢はかなり先取りしてユネスコスクールを行っていますので、いろいろな実績や蓄積があると思いますが、今回が初めてだと聞いて驚きました。これまで各学校でカリキュラム等を作る取り組みも伺っていますが、ユネスコスクールの取り組みとして、顕著な実績や注目されるものがあれば、ご紹介いただきたいと思います。

西川学校指導課長

ユネスコスクールに加盟することによって、県外や国外の加盟校と交流し情報交換することもできます。実際に学校の先生がESDの北陸コンソーシアムの予算を頂きながら、海外の学校に研修に行くこともありました。それから、絵画のアートマイルプロジェクトについても、国外の学校と一緒に行った例もあります。

また、これまで学習した内容に関しては、各学校が年度末にA4用紙1枚程度の原稿にしたものを市教育委員会で全部まとめて、金沢市のユネスコスクール取り組みの報告という形で冊子にしたものを学校に配布し、それをもって各学校の取り組みを共有していました。子どもたちの発信は学校内でとどまるが多かったのが、今年度は子どもたちが自分の言葉で他校の子どもたちにも伝えながら、取り組みを共有し合うことも大事にしていきたいと思っています。

野口教育長

毎年度末、ユネスコ本部に英文でその年の成果をまとめ、送ることになっていましたよね。私の学校がこのスクールに加盟したときは、最後に英文でまとめて、その年度のまとめを送っていた記憶があります。

西川学校指導課長

年度末の英文での報告については記憶が定かではないのですが、加盟する際には、日本語での加盟申請書を金沢大学の事務局で検討していただき、それを英文に直したものをユネスコ本部に提出し、承認を頂いています。今年度、未加盟校についても全ての学校が加盟申請するという事で学校にお願いしています。今年度は小学校7校、中学校13校の計20校が金沢大学に加盟申請書を送付していますので、その結果を受けて来年度以降には全ての小・中学校がユネスコスクール加盟校に指定される予定になっています。

野口教育長

年度ごとに報告をまとめ、その年度の成果をしっかりと確認しながら次に向かうことが大事だと思います。

## ○ その他 (2) 平成 28 年度 金沢市立工業高等学校卒業予定者の進路状況について

(説明の概要) 議案書 8 ページ。今年度の市立工業高校の卒業予定者は 238 名で、そのうち就職希望者は全体の 7 割、165 名である。進学希望者は全体の 3 割、73 名である。本校では平成 22



年から、就職を希望する生徒の割合が増える傾向にあり、昨年度は6割だった。今年度は好調な就職状況を背景にさらに増え、7割となった。就職希望者のうち内定者は1月10日現在で158名、内定率は95.8%である。このうち9割の生徒が石川県内の企業・団体に採用予定であり、主な就職先は資料に記載のとおりである。まだ決定していない7名については、既に内定を取った者や公務員試験の結果待ちの者などである。一方、進学については、資料に記載の大学などに61名の合格が決まっている。残りの生徒については現在、一般入試で大学進学を目指している。引き続き、卒業生全員が希望の進路に進めるよう、学校全体で取り組んでいく。

| (特になし)

以 上

## 会 議 録 署 名

教 育 長 \_\_\_\_\_ 署 名 \_\_\_\_\_

教 育 委 員 \_\_\_\_\_ 署 名 \_\_\_\_\_

(大島委員)